

## 【全体概要】

- 本県では、マスカット・ベリーAから消費者ニーズの高い大粒系品種への改植・導入を推進してきた。
- 全国的に人気が高い「シャインマスカット」は本県での栽培面積が少なく、有望品種に位置づけ栽培技術の確立と生産振興を図る。
- 既存の果樹棚よりも低コストな果樹棚の実証と普及に取り組み、新規栽培者を確保し産地育成を目指す。

## 新品種・新技術等の概要

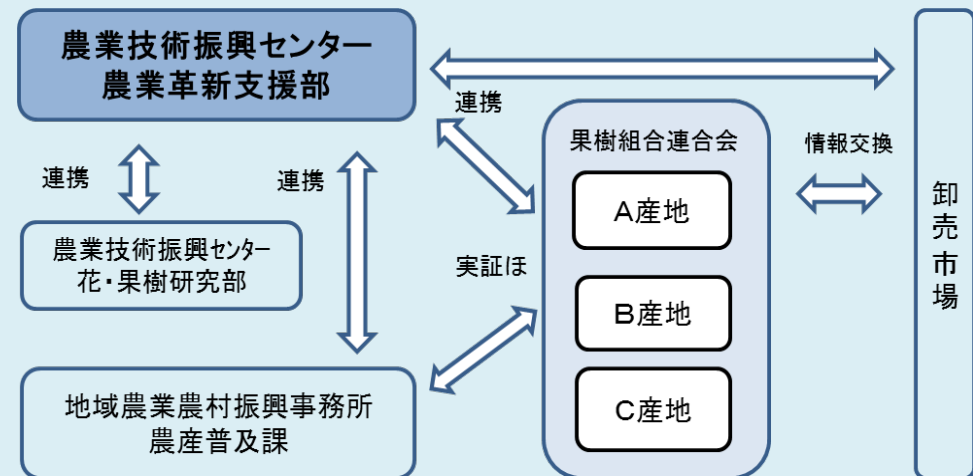
- 品種「シャインマスカット」  
農研機構で開発された品種で、本県では平成24年から導入
- 開花始期の新梢摘心による果粒肥大促進技術  
開花始期に、房先6葉を残して新梢を摘心することにより、果粒の肥大が促進
- 光反射シート敷設による収量向上技術  
棚下に光反射シートを敷設すると、棚下の光条件が改善され収量が向上
- ブドウ「シャインマスカット」専用カラーチャート  
収穫適期が、果皮色で簡易に判定
- 低コスト簡易雨よけ栽培技術  
Φ25mmの直管パイプを加工して自家施工できる低コストな簡易棚を開発
- 水稲育苗ハウスを利用するアーチ栽培技術  
水稲育苗のハウスを利用することにより、果樹棚の設置費用が抑制



## 主な取組内容

- 「シャインマスカット」の果実品質、収量の向上を目的として、「開花始め期の新梢強摘心による果粒肥大促進技術」と「光反射シート敷設による収量向上技術」について、実証ほを設置
- 果樹棚の導入費用を抑える対策として、「低コスト簡易雨よけ栽培技術」と「水稲育苗ハウスを利用したアーチ栽培技術」の実証ほを設置
- 実証ほを活用した現地検討会の開催
- 「シャインマスカット」の生産拡大に向けて、栽培技術マニュアルを作成
- 県域の生産振興大会の開催

## 実施体制図



## 実績と今後の展開

- 「シャインマスカット」の栽培面積は、74a(H29)から296a(R1)に増加した。
  - 施肥の増量と「開花始期の新梢摘心による果粒肥大促進技術」に取り組み、果粒重が18%増え、大粒化を実証できた。
  - 棚下への光反射シートの敷設により、果実品質を落とさず高品質なブドウが多収(3割)できることを実証できた。
  - 開発した簡易棚は、資材費が115万円/10aで、既存の平棚の3割程度の費用となり、低コストになることが実証できた。
  - 水稲育苗ハウスを利用したアーチ栽培は、水稲苗の運搬作業の障害にならないよう棚面を高くすることにより、育苗後のハウスが有効利用できる。
- 【今後の展開】
- これらの技術を組み合わせた栽培技術の確立と簡易棚の普及を図り、「シャインマスカット」の高品質果実生産と収益性の向上、産地づくりを推進する。